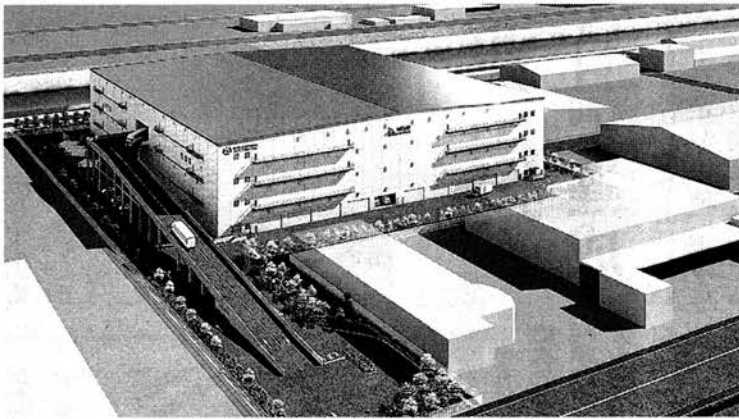


# 横浜本牧に大型施設



来年1月に稼働する「横浜本牧営業所」は同社最大の物流施設になる

## 食品関連業務手掛ける

### ダイワコーポ

ダイワコーポレーション（本社・東京、曾根和光社長）は来年一月二十五日、横浜市に「横浜本牧営業所」を完成予定。同日稼働する。延べ床面積六万八千平方メートルを超える同社最大の施設は、二階の全フロアに定温管理できる機能を備える。輸入食材店の業務受託が決まっており、来年十月の創立六十五周年に向け、「大プロジェクト」（曾根社長）と位置付ける。（小林 孝博）

所在地は横浜市中区豊浦町四ノ二。敷地面積は一四階建て、延べ床面積約六万八千四百平方メートル。三菱商事都市開発（本社・東京、村田弘一社長）が開発した物流施設を二棟全て賃借する。

横浜本牧営業所は、二階の全フロア（約二万六千五百平方メートル）に定温機能を持つことが特長。一八〜三度の温度帯で、貨物に合わせた適切な管理ができる。定温倉庫としては京浜エリアで最大級の規模となるという。

構内には、一階と三階にそれぞれ大型トラックが最大四十台まで接車可能なバスを整備。スロープの設置により、トラックが三階に直接乗り入れられる。首都高本牧ふ

頭インターチェンジから約十分の距離に位置し、首都圏の広域配送に対応できる。

#### 定温物流は成長の試金石に

新営業所の開設に当たり、同社は急成長を続ける輸入食材店の業務を受託。二階より上のフロアで行う庫内作業を請け負う。温度管理が必要な食

品物流の経験はあるが、大型案件を手掛けるのは初めて。「定温物流の展開は当社を次のステージに上げる試金石。今回の経験を基にさらなる事業拡大につなげたい」（曾根社長）。

とする「横浜本牧営業所開設はこれまで築いてきた信頼関係のたまもの。施設面では三菱商事都市開発と深いつながりがあったからこそ、高機能な物流センターを確保できた。輸入食材店の新規業務も営業活動を徹底し、担当者との人間性を認めてもらったことで獲得につながった」と曾根社長。

#### 信頼関係の集大成で道開く

「横浜本牧営業所の開

顧客の要望に対応するため、将来的に保税蔵置場の許可を取得したり、輸入コンテナのドレージ輸送の手配などにも取り組んでいく考えだ。